

「こども映画館 スクリーンで見る日本アニメーション！」

こんなワークショップができます！

アニメーションの上映にあわせ、簡単なワークショップを行うことで、親子の映画鑑賞への参加を促すことができます。鑑賞後にアニメーションのキャラクターに色を塗るなど、手を動かしながら、鑑賞した映画の感想を聞くだけでも構いません。簡単な準備で、子どもから大人まで楽しめる視覚玩具づくりを通して、アニメーションのしくみを理解することができます。動きを楽しむのであれば、丸や三角などの単純な図形でも十分です。時間に余裕がある場合は、色を塗るなど丁寧にすることで完成度が高くなります。

親子で参加の場合は、子どもだけの活動スペースをつくり、親も作品を制作することで、子どもが自由にいきいきと活動できます。いずれのワークショップも、最初に参加者が完成したマジックロールやソーマトロープにふれて体験すると、導入がスムーズになります。ちいさな子どもでも夢中になると非常に集中します。驚き盤のように根気があるものは20分～30分を目途に休憩を入れることが大切です。

キットを用意する場合は失敗することも考え、参加人数よりも多めに用意しましょう。またハサミ、カッター、画鋏などの使用や管理には注意が必要です。

視覚玩具は一人で楽しむものが中心ですが、カメラで撮影し、プロジェクターなどに投影することで、映画のようにみんなで作品を共有することが可能になります。

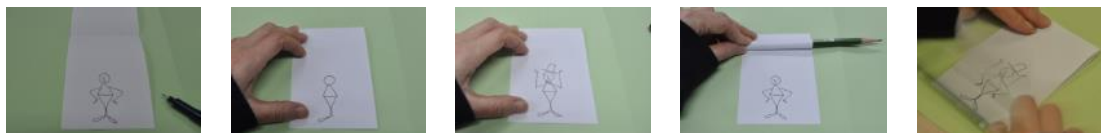
対象年齢、時間は目安です。

進め方 活動・場所の説明 ⇒ 導入（見本をみせながら説明）⇒ 活動（具体的に作りながら説明をします。進めながら、子どもが理解しているか確認し、困っていればスタッフが対応します）⇒ 完成・鑑賞（発見したことなど、楽しかったこと、大変だったことなど、感想を聞いてみましょう）

1. マジックロール 対象：未就学児□（説明5分、制作10分）

身近なものでアニメーションの原理を楽しめるしくみ。

用意するもの：A4用紙（長辺を4分の1に切る）、HB以上の濃さの鉛筆、色鉛筆、消しゴム、ペン、カラーペン



- ① A4を長い辺を4つ切りし、短冊状の紙を4枚作ります。
- ② その1枚を長い辺を半分に折ります。絵を描く前に、どんな絵でどのような動きをつけるか考えます。2コマ「1、2」の絵をパタパタとうごく動作を考えるのがコツです。
- ③ 折り目を開き、絵を描きます（1の絵です）。そのとき下から2/3のところを使いましょう。つぎに紙を折り、1の絵の動かない部分（体と片方の足）をなぞります。それ以外は違う動きを（手）はなぞらず、2の絵を仕上げます（帽子も加えました）。
- ④ 鉛筆で上の紙を巻き上げます。きつく巻くとクセがつき、より簡単に楽しめます。
- ⑤ 紙を巻き上げた鉛筆を上下させることで、「1、2」の動きが連続して見えます。
- ⑥ 仕上げに色を塗りましょう。ペンでかけば、より絵が鮮明にみえます。

2. 赤青アニメーション 対象：未就学児□（説明5分、制作30分）

1枚の紙でアニメーションをたのしめるしくみ。

用意するもの：A4の紙、セロファンテープ、5センチ角セロファン（赤と青）、赤ペン、青ペン

赤青アニメの画像は子どもの城映像科学部門ブログより



- ① 赤、青のセロファンをテープで「赤青メガネ」をつくります。
- ② つぎに赤色のペンで紙に絵（うさぎ）を描きます。
- ③ ②とちがった動きをつけて青色のペンで描く（うさぎの耳と表情をかえました）。このとき動かない部分は重なるように描きます。
- ④ 「赤青メガネ」を左右に動かすと、赤のメガネでは青色部分、青のメガネでは赤色部分が見えることで、絵が動いて見えます。

3. ソーマトロープ 対象：小学生□ （説明10分、制作30分）

用意するもの：7.5cm角の付せん2枚、輪ゴム二つ、鉛筆、消しゴム、ペン、カラーペン、色鉛筆、穴あけパンチ（あればパンチラベル）。

※付せんを使わない場合は紙（コップを使い、円を描くことで代用）とのり、ハサミを使います。



- ① 「鳥かごのなかの鳥」を表現するために、付せん1枚に鳥、もう1枚に鳥かごの絵を描きます。
- ② 二つ絵を天地が逆になるように合わせます。間違えやすいので、手で回転させて確認しましょう。
- ③ 重ねた付せんの両端にパンチで穴をあけ（補強のためパンチラベルを貼り）、穴に輪ゴムをかけます。
- ④ 輪ゴムを軸に回転させると、鳥が鳥かごにいるように見えます。

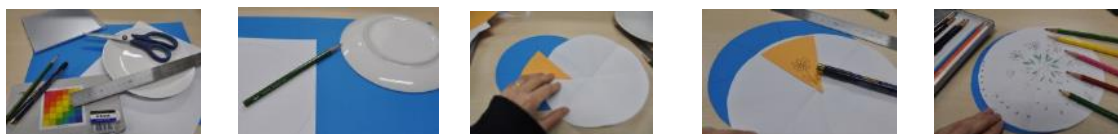
アイデア）水槽と金魚、帽子からでる兎、雨とカエル、葉っぱとカタツムリなど

ソーマトロープとは？）1825年J.A.パリスによって考案された目の残像現象をつかった玩具。例えば、表に鳥と裏に鳥かごが描かれた絵が回転したときに重なり、鳥かごに鳥がいるようにみえるしくみです。

4. フェナキスティスコープ（驚き盤） 小学生□ （説明10分、制作60分）

8つの絵を描いてアニメーションをつくります。

用意するもの：鏡、割り箸、画鋏、セロテープ、はさみ、定規、のり、鉛筆、消しゴム、ペン、カラーペン、白い紙、濃色の厚紙、お皿





鏡で覗く図

- ① 白い紙と厚紙に皿をあて円を描きます。
- ② 白い紙をケーキを分けるように8等分に折ります。余った紙で1/8サイズの紙を目盛（写真はオレンジの紙）として切っておきます。
- ③ 8つの絵を描きます。1, 2, 3...7の後に8に戻るような絵にすると、うずまきのようにつづくアニメーションになります。目盛に基本となる画を描くと次の絵を描く上でトレースするなど参照でき便利です。
- ④ 8つの絵の間に切り込みを入れます。（ここでは3.5cmの切り込みを入れています）
- ⑤ 円の真ん中に画びょうを付け割りばしに刺します。画びょうはテープやコルクなどピンの先端を養生します。
- ⑥ 鏡で覗き、画が動いて見えるか確認しましょう。動きを確認したら、ペンで濃くなぞって完成です。色をつけて綺麗に仕上げるとよいでしょう。

アイデア） 水がしたたる様子、花火、つぼみから花になる様子、ボールがはねる様子、など

フェナキスティスコープとは？） 1831年、ベルギーのジョゼフ・プラトーにより発見された視覚玩具。円盤にコマのアニメーションが描かれ、コマとコマの間にスリットがあり、そのすき間を通して、鏡をのぞくと、速さとともに絵が動いているように見えるしくみです。

© 旧・こどもの城 映像科学部門のプログラムを動画で見ることができます。

<http://oshirois.blog.fc2.com/>